

土壌医 藤巻久志

# ソラマメ



栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地栽培 (温暖地)					①					②	③	
露地栽培 (寒冷地)					①					②	③	

② 種まき ③ 植えつけ ① 収穫

## ソラマメ (マメ科ソラマメ属)

ソラマメは漢字では、さやが空を向いて付くから空豆、さやが蚕に似ているから蚕豆と書きます。

1980年代に宮城県北部の築館町(現栗原市)に春まき栽培の産地ができるまでは、ソラマメの秋まき栽培の北限は同県南部の村田町とされてきました。当時は宮城県以北ではソラマメの流通はなく、エダマメのようにさやごとゆでるものだと思っていた人もいました。

江戸っ子はソラマメを食べないと夏を迎えられません。大相撲が蔵前国技館で行われていた夏場所、秋葉原の旧神田青果市場では房州(千葉県)の初物のソラマメが初日に最高値で取引され、千秋楽に向かつて徐々に値下がりしていきました。今は、鹿児島産のソラマメが年内から出回っています。

ソラマメの豆は空気に触れるとすぐに



硬くなるので、さや付きのまま流通しています。収穫した瞬間から鮮度が落ちていきます。キッチンガーデンなら、新鮮を取れたてのソラマメを味わうことができます。

10号(30cm)以上の鉢や大きなプランターに市販の培養土を入れ、日当たりと風通しの良いバラndaで育てます。10月から11月上旬が種まき適期です。鉢なら真ん中に、プランターなら株間25cmに2〜3粒を、「おはぐろ」を斜め下に2〜3cmの深さに押し込みます。本葉2枚までに間引きして1本立てにします。

追肥は耐寒力をつけるための12月と、生育が盛んになり始める2月に1000倍の液肥を施します。窒素肥料が多過ぎると、茎葉ばかり茂ってさやが付かないことがあります。防寒と保湿のために、株元にわらや腐葉土を敷きます。冬の間は乾燥気味にし、生育が盛んになったら、午前中に水やりします。水のやり過ぎは根を傷めるので、夕方には土の表面が乾く程度にします。

春に分けつした茎が伸びるので、元気な物を5〜6本残し、他は切り除きます。さやが十分膨らんで、上向きだったさやが横から下向きになったら収穫適期です。

JAグリーン  
津店が教える!  
ソラマメ  
栽培のポイント



JAグリーン津店 城チーフ

ソラマメは草丈が1m近くまで生長し、風が吹くと倒れやすくなってしまう。草丈が30〜40cmになったら、15mの支柱を株のそばに立て、紐でゆるく結びつけるといいでしょう。

### 〈整枝・摘心〉

春になるとどんどん茎を伸ばすので、枝が消耗しないように整枝してあげましょう。上記のように整枝する目安は、草丈が30〜40cmになった時です。さらに、草丈が60〜70cmになったら、頂点にある枝を落とし実に栄養が回るようにしましょう。

### 〈連作障害〉

連作障害をおこしやすいため、過去5年間マメ科の植物を植えたことのない土を使いましょう。

### 〈害虫〉

アブラムシ類、マメシキイガ、ヨトウムシなどの害虫がつきやすいため、アディオオン乳剤で防ぎましょう。



アディオオン 乳剤

# サツマイモ

あなたも今日から 栽培名人

板木技術士事務所 板木利隆



栽培計画	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
早掘り栽培					🌱				🍷			
普通栽培					🌱					🍷		

🌱 植えつけ 🍷 収穫



## サツマイモの上手な収穫と貯蔵法

初夏から盛夏にかけて盛んにつるを伸ばしてきたサツマイモは、やがて収穫の時期を迎えます。芋の肥大経過をたどってみると、通常8〜9月には半数以上が50g以上にもなり、その後急生長し10月中旬〜11月に入ると肥大は緩やかになります。霜が降りるころまで少しづつ太り続けます。

自家菜園では必要に応じて探り掘り（株元に手を差し込み、適当に肥った芋だけを収穫する）、あるいは早掘り（株全部を掘り取る）して、8〜9月ころから秋の味覚を楽しむようにしましょう。

本格的な収穫の適期は、10月下旬〜11月で、肌寒さを感じ、初霜も近くなった頃です。初霜が降りると若い葉が枯れるので、すぐ分かります。何回か降霜に遭い、多くの葉が黒く枯れ上がったなら待たなし、急いで全部掘り上げてください。収穫日はできるだけ畑が乾いていた方が芋のためにも作業のしやすいのためにも好都合です。

収穫の手順は、まずつるの株元部分を探り出し、実際のつるを地上4〜5cm残し、鎌で刈り取ります。刈り取ったつるを畑の外へ運び出し、畝を丸裸にし、マルチフィルムを剥が



【探り掘り】



【本収穫】

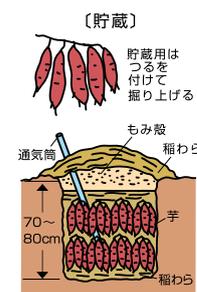
(1) つるを刈り取る

してから、芋を傷つけないよう注意して株元に大きくくわを打ち込み、芋全部を掘り出します。

その際注意すべきことは、つるは強大で大きく絡み合っているので、畑の中で50〜60cmほどの長さに鎌で切り分けて、

また、掘り取る際に、貯蔵予定の芋は、つるから外さないよう注意して扱い、容器に入れて丁寧に持ち運ぶようにしましょう。刈り取った大量のつるは、畑の隅などに堆積して乾かしておきます。このつるは堆肥材料としてもよく、特に来春のトマトなど果菜類の元肥溝に、粗大堆肥材料として施すと、大きな役割を果たしてくれます。

貯蔵方法は、水はけの良い場所を選び図のように深さ70〜80cmの穴を掘り、底の部分に



【貯蔵】

稲わらを敷き、つるの付いたままの芋を傷つけないよう丁寧に重ね入れ入れます。収穫が終わったら上にも稲わら、もみ殻を覆います。貯蔵の適温は13度、湿度は90%が目安です。少量の貯蔵なら、芋を新聞紙にくるんで、保湿性の高い発泡スチロールの箱に入れ、室内の冷暗所に置くだけで十分です。



(2) くわを大きく打ち込んで芋を掘り上げる

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

## 農業PR隊長カツラギ通信は ホームページで配信中!!

農業PR隊長カツラギ通信

検索

みてね!



## カツラギ PHOTO GALLERY

